

施工説明書

キッチン用タッチレス水栓
(浄水器ビルトイン型)

JF-NA466S型

1. 施工の前に

安全上のご注意

- 施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
- ここに示した注意事項は状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。
- いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 施工完了後、正常に作動することを確認してください。お客さまに引き渡すときは、取扱説明書にそって使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- この施工説明書は、取扱説明書と共にお客さまで保管頂くように依頼してください。

用語および記号の説明

警告	「取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。」
注意	「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物理的損害のみが発生する危険な状態が生じるごとが想定されます。」
△ (上記の「注意」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。)	「注意しない！」
○ (禁止)	「してはいけません！」（一般的な禁止記号です。）
○ (分解禁止)	「分解してはいけません！」
○ (水場禁止)	「バスルームやシャワールームなどの水場で使用してはいけません！」
! (指示)	「指示通りにしなさい！」（一般的な行動禁止記号です。）

△ 警 告

○ (分解禁止)	修理技術者以外の人は水栓を分解したり、修理したりしないでください。 ※発火、感電したり、異常動作してケガをすることがあります。	
! (指示)	給水圧力は必ず給湯圧力以上にしてください。 ※正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。	
○ (禁止)	水につけたり、水をかけないでください。 ※発火、ショート、感電、故障の原因になります。	
○ (水場禁止)	バスルーム等の水がかかる所や、表面に水滴を生じるような温氣の多い場所では使用しないでください。 ※発火、ショート、感電、故障の原因になります。	
○ (禁止)	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたり、重い物を乗せたり、挿み込んだりしないでください。 ※電源コードが破損し、発火、ショート、感電の原因になります。	
○ (禁止)	電源プラグを濡れた手で触れないでください。 ※感電の原因になります。	
○ (禁止)	電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントへの差しこみがゆるいときは使用しないでください。 ※発火、ショート、感電の原因になります。	
○ (禁止)	交流100V (50/60Hz) 以外では使用しないでください。 ※発火、ショート、感電の原因になります。	
○ (禁止)	直流電流や異電圧の電源での使用は避けてください。 ※火災の原因になります。	
○ (禁止)	電源プラグに付いたホコリは、取り除いてください。 ※電源プラグがたまると、漏気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。	
! (指示)	電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜いてください。 ※発火、ショート、感電の原因になります。	
○ (禁止)	水道水以外は使用しないでください。 ※商品の内部腐食により漏水、発火、ショート、感電の原因になります。	
○ (禁止)	湯水を逆に配管しないでください。 ※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをする恐れがあります。	
! (指示)	ヤケドの恐がないところまで水圧変動を押された配管設備にしてください。 ※他の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇し、ヤケドをする恐れがあります。	
○ (禁止)	給湯機器の温度設定は85°C以上で使用しないでください。 ※水栓が破損し、ヤケドや家財を濡らす恐れがあります。	
! (指示)	フレキホースの差し直しやストレーナーの掃除をする際は、必ず湯側水側の両方の止水栓を閉じてから行ってください。 ※湯・水が噴出してヤケドをしたり、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。	
○ (禁止)	トイレ用洗剤・住宅用洗剤・漂白剤・ベンジン・シンナー・トイレ用ウェットティッシュ、クリンザーラー、クレジールを使用しないでください。 ※発火、ショート、感電、故障の原因になります。	
△ (上記の「注意」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。)	衝撃を与える、もたれかかたりしないでください。 ※破損してケガをしたり、漏水や故障の原因になります。	
! (指示)	お客さまに引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。 ※凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。	

本製品の仕様と条件

電 源	AC 100V 50/60Hz	消 費 電 力	常時：0.8W 作動時：1.6W
給湯器設定温度	85°C以下	使 用 可 能 水 質	水道水および飲用可能な井戸水（※1）
使 用 環 境 温 度	1~40°C	給 水 給 湯 接 続	G1/2
圧 力 条 件	0.06MPa(流動圧)~0.75MPa(静水圧) 給水圧力≥給湯圧力（※2）		
感 知 距 離	約40mm(グレーカード：80mm角)	感 知 エ リ ア 幅	約φ5mm
電源コード長さ	1.8m		

※1：飲用可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水をいう。
※2：給湯圧力が給水圧力よりも高い場合、正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。

ガス給湯器(比例式制御式：16号相当)と組み合わせる場合の給水圧力

最 低 必 要 圧 力	A + 0.09MPa(流動圧) ※Aはガス給湯器の最低作動圧力です。
最 高 圧 力	0.75MPa(静水圧)

測定条件は次の通りです。
 ●レバーハンドルは全開。
 ●給水温度5°C、吐出温度42°C(ガス給湯器との組み合わせが最も悪い冬季を想定)。
 ●給水圧力はガス給湯器直前ににおける流動時の圧力です。
 ●ガス給湯器の設定温度は最高温度です。

工事店様へのお願い

貴店名ならびに据付引渡し日を保証書にご記入の上、お客さまに必ずお渡しください。
また、定期的に交換が必要な部品があることをお客さまに必ずお伝えください。

商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。
なお施工完了後、この施工説明書を同梱の「取扱説明書の袋」に入れてお客さまにお渡しください。

貯湯式温水器と組み合わせる場合の給水圧力

最 低 必 要 圧 力	0.07MPa(流動圧)
最 高 圧 力	0.75MPa(静水圧)

●給水圧力と給湯圧力の差を小さくしてください。温度調節が容易になります。

その他の条件

- 給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で適正圧力(0.20~0.34MPa)に減圧してください。
- 給湯器に蒸気は使用できません。
- 給湯温度は使用する最高温度より約10°C高く設定してください。
- 不意の出湯によるヤケド防止のため、給湯器の設定温度は60°C以下をおすすめします。

施工前の注意

取付けに必要な工具

- 取付けには専用工具（KG-1またはKG-2）またはソケットレンチ（対辺24）、モンキーレンチ2本、プライヤー、マイナスドライバーが必要です。

止水栓を設けてください。

- 取付け後の流量調節や手動弁操作・保守点検のために、必ず止水栓(別売)を設けてください。
- 使い勝手や性能発揮のために 流量調節をしてください。特に水圧が高い場合など、流量調節がされていないと漏水・破損の恐れがあります。

隠蔽部に施工する場合は点検口を設けてください。

- 取付後の手動弁操作の施工のために、必ず点検口を設けてください。

補強材を使う場合

- カウンター裏面に補強材を使う場合は、木製のボードを使用してください。珪酸カルシウム板は使わないでください。本体が正しく固定できないことがあります。やむをえない事情で珪酸カルシウム板を使用する場合は、別売りのA-3811を使用して取り付けてください。

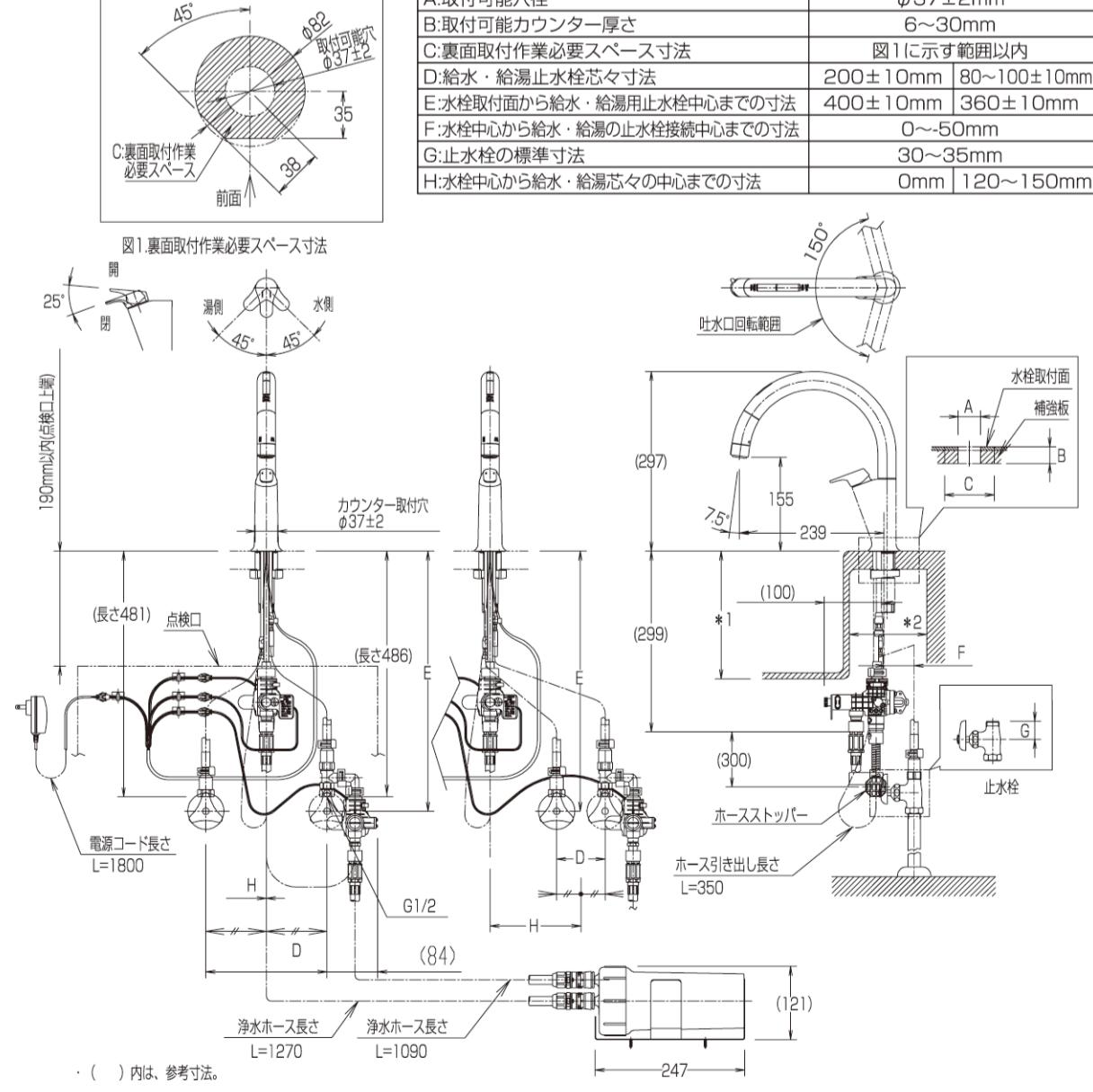
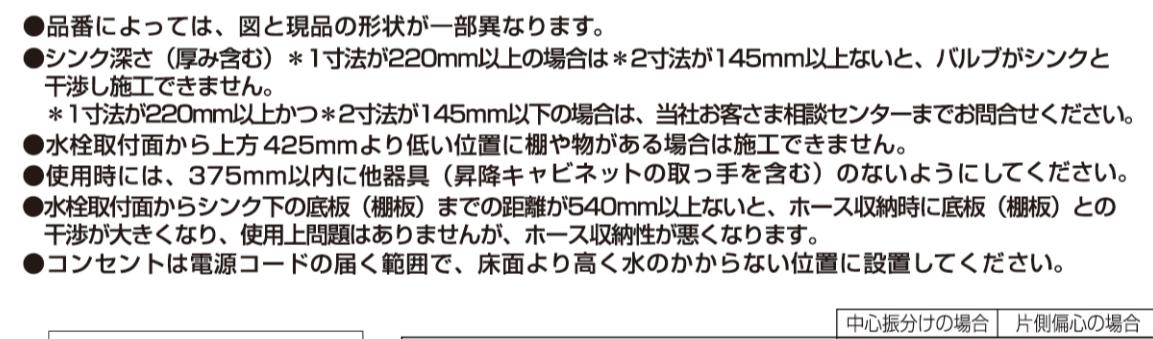
配管・配線について

- 給水は水道水に接続してください。
※温泉水など異物を多く含む水には使用できません。
- 給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確認してください。
※逆配管では表示通りに湯が出ません。
- 給湯配管はできるだけ短くし、必ず保護材を巻いてください。
- ACアダプターは必ず指定のものをご使用ください。
- 万が一の危険防止の為、電源の一次側に1か所漏電遮断器を設置してください。
- 電源線はφ1.6mm又はφ2.0mm以上のものをご使用ください。（現場手配）
- 電気工事は必ず電気工事店に依頼してください。
- コンセントは1口タイプをご使用ください。
- コンセントは、ACアダプターの定期的なお手入れが行えるような位置に設けてください。
※隠蔽部には設けないでください。
- 水道工事と電気工事は十分工程を打ち合わせのうえ行ってください。
- 必ず 配管中の異物を完全に洗い流してください。

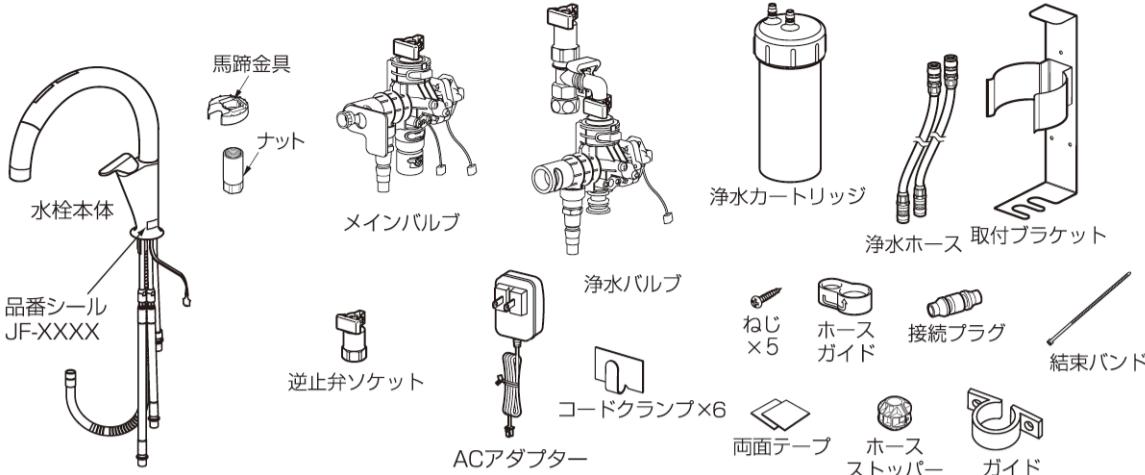
その他の注意点

- 商品の表面には、直接工具を掛けないでください。
※工具を掛ける場合には、必ず商品に布等をあてて保護してください。
- 開梱、取付けの際には商品の表面にキズを付けないように十分に注意してください。
- センサーの窓を傷つけないように十分にご注意ください。
- インバーター照明や赤外線を用いたほかの機器により誤作動する場合があります。
- 直射日光が当たる場所でのご使用は誤作動の原因になります。

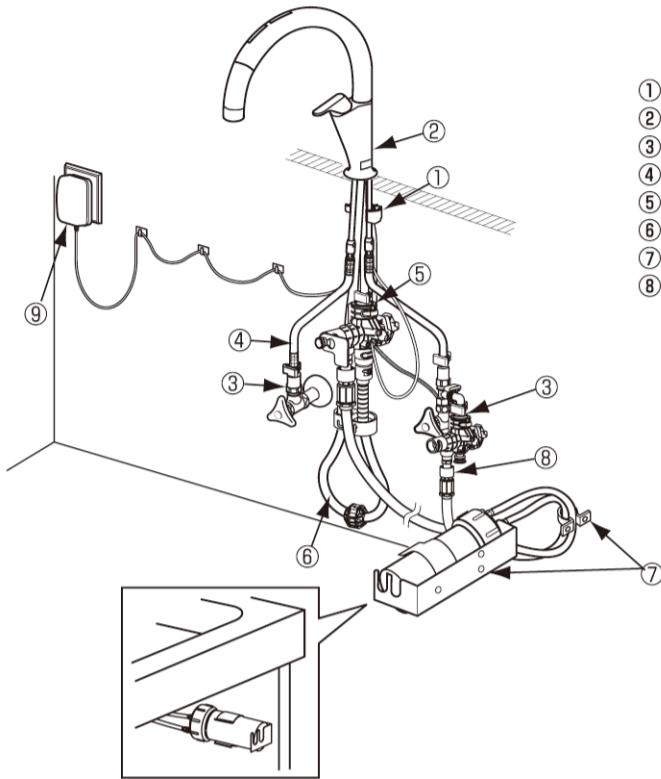
施工完了図



部品の確認



2. 施工手順



- ①水栓の固定
- ②逆止弁ソケット・浄水バルブと止水栓の接続
- ③給水・給湯ホースと逆止弁ソケットの接続
- ④ホースとメインバルブの接続
- ⑤ホースの収納性の確認
- ⑥取付ブラケット・ガイドの取付け
- ⑦バルブと浄水ホースの接続
- ⑧電源部の接続

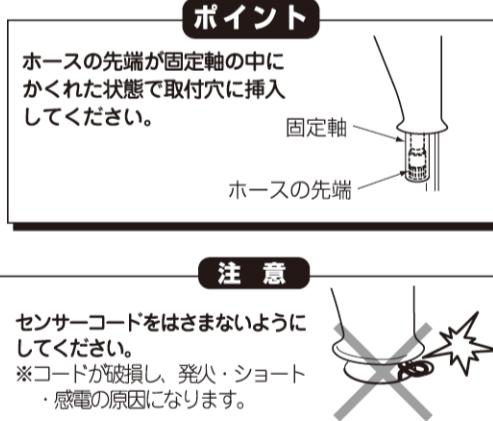
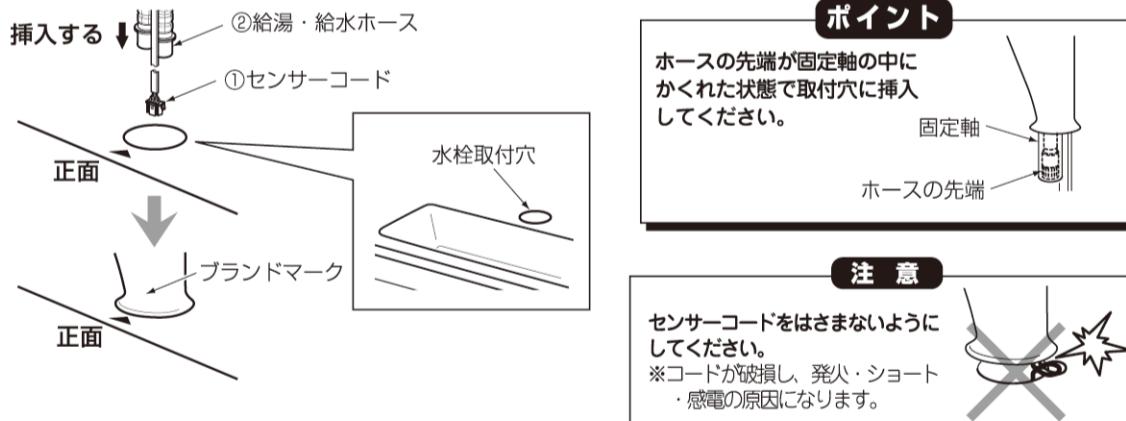
3. 施工方法

1 水栓を固定する

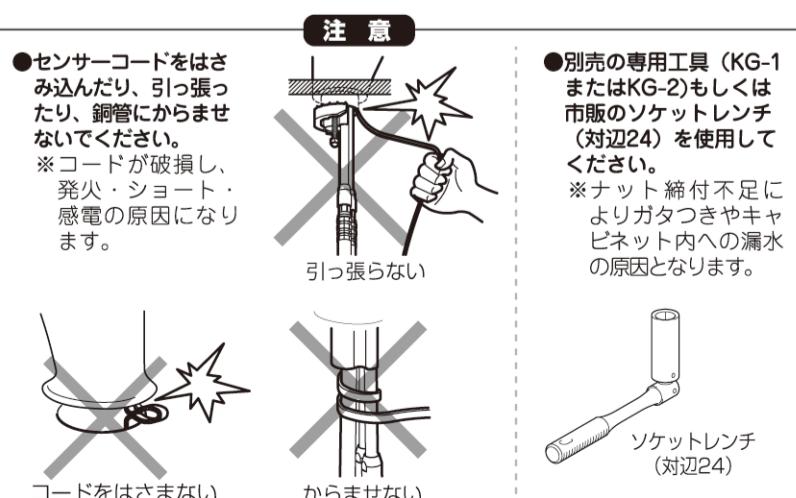
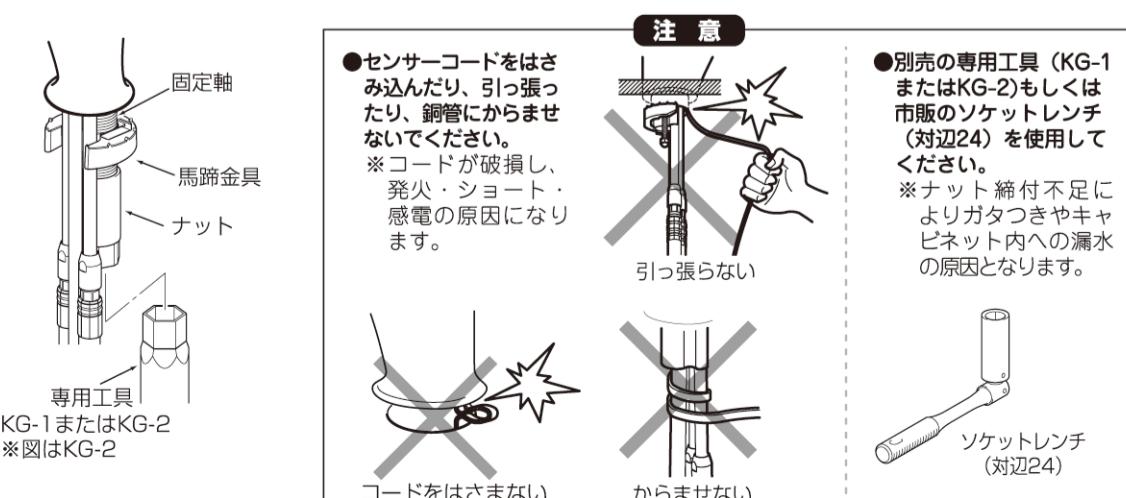
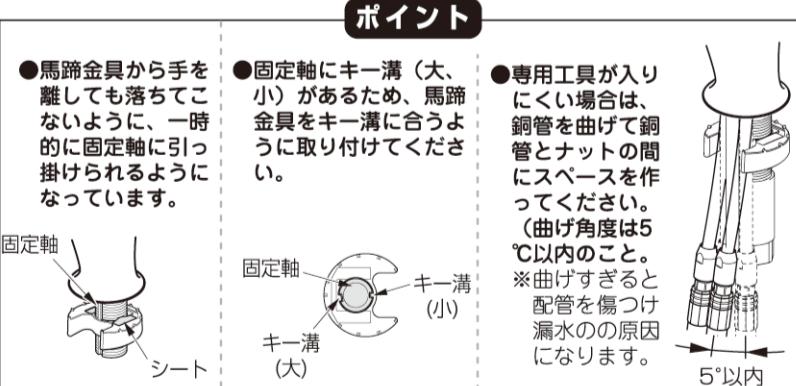
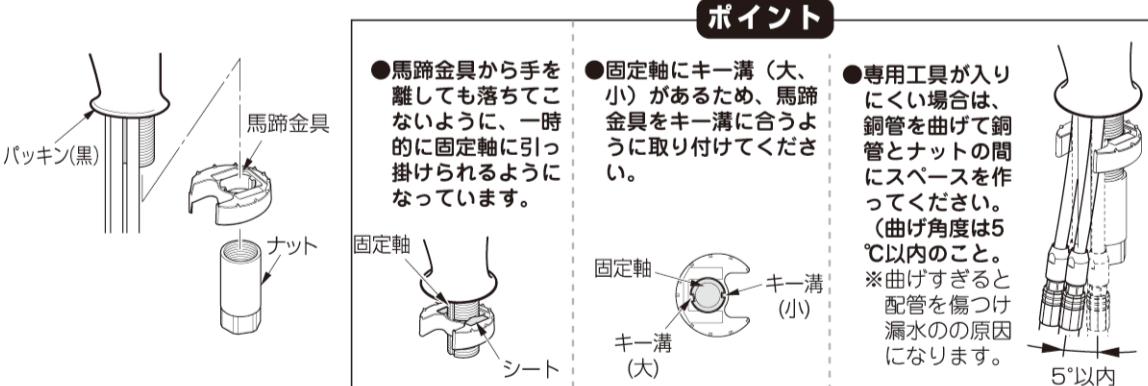
1. ホースの先端が固定軸の中にかくれるまでハンドシャワーを引き出す。



2. センサーコードを先にアダプターに挿入し、続いて給水・給湯ホースを挿入する。ブランドマークが正面を向くように水栓取付穴に挿入する。



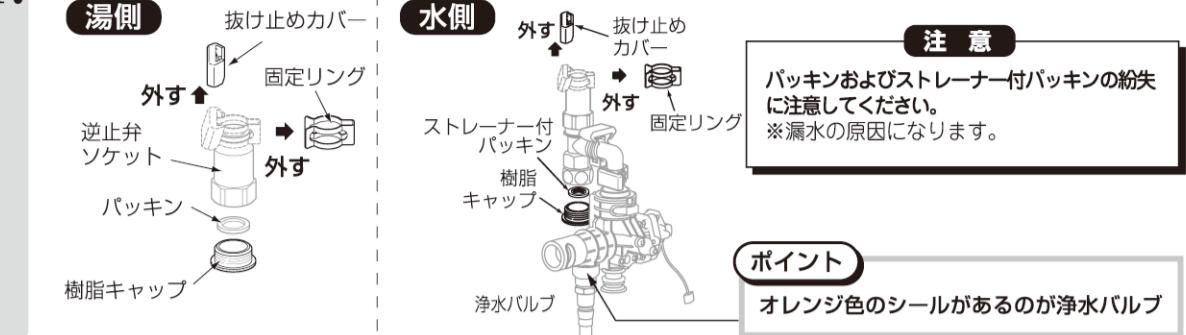
3. 馬蹄金具を固定軸に挿入してナットで締め付ける。



2 逆止弁ソケット・浄水バルブと止水栓の接続

湯側と水側でストレーナー付パッキンの位置が異なりますのでご注意ください。

1. 抜け止めカバー・固定リング・樹脂キャップを外す。



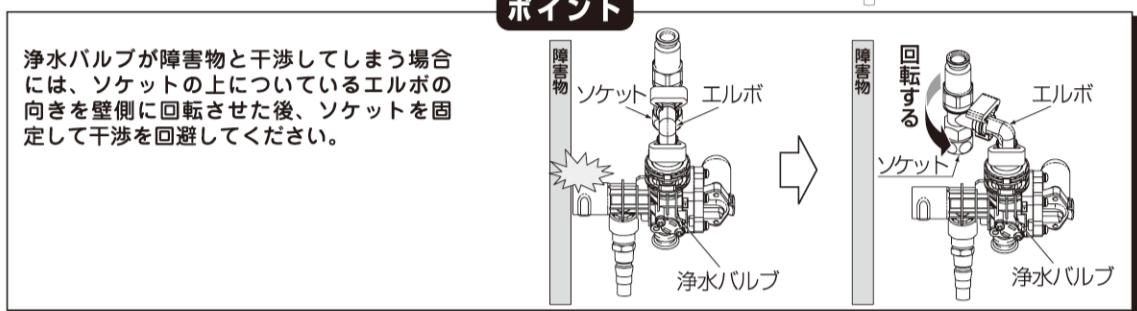
注意
パッキンおよびストレーナー付パッキンの紛失に注意してください。
※漏水の原因になります。

ポイント
オレンジ色のシールがあるのが浄水バルブ

2. 逆止弁を湯側止水栓に、給水バルブを水側止水栓に固定する。



湯側 逆止弁ソケット
水側 ソケット
ストレーナー付パッキン
樹脂キャップ
浄水バルブ
止水栓（湯側）
ナット締付け

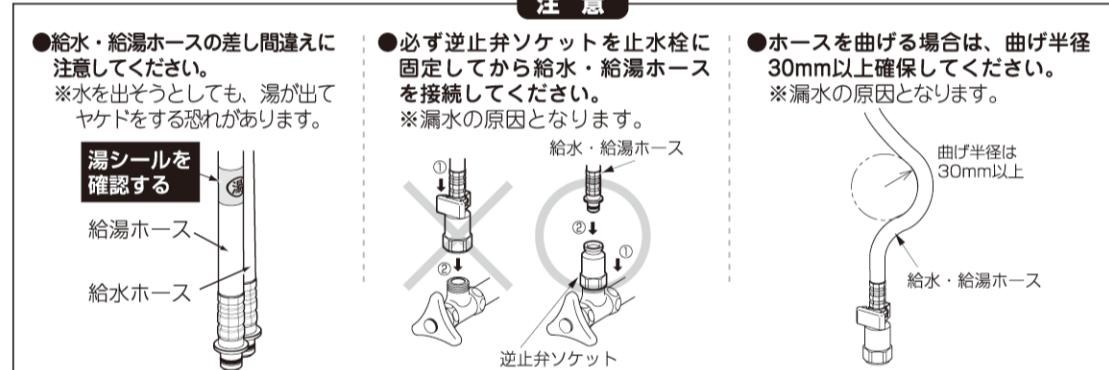
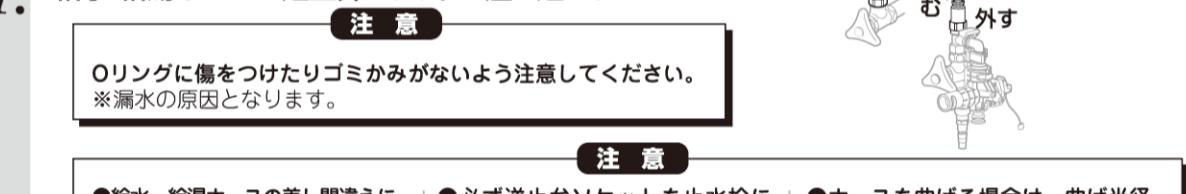


注意
●ストレーナー付パッキンの向きに注意してください。
※正しく取り付けられていないとゴミが詰まりやすくなり、流量が少なくなることがあります。
●右図のように、浄水バルブ本体は必ず止水栓の右側に取り付け、コードが出ている部分を後ろに向けてください。
※発火・ショート・感電、故障の原因になります。

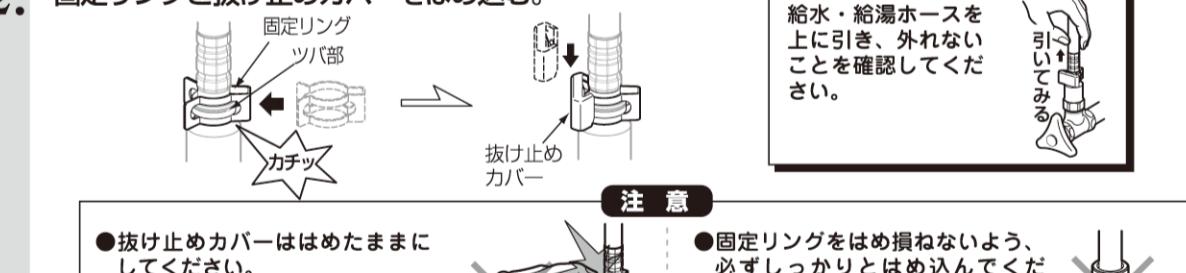
コードは後ろ側になるように
●締付けはナット部にしっかりと固定してください。
※締付けが不十分であったり強く締め付けすぎると、漏水の原因になります。

3 給水・給湯ホースと逆止弁ソケットの接続

1. 給水・給湯ホースを逆止弁ソケットに差し込む。

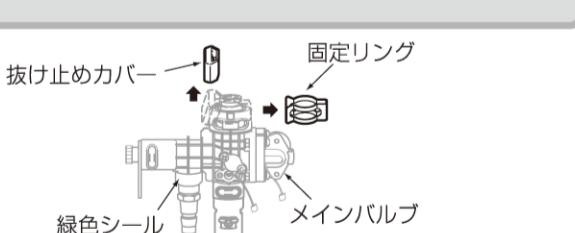


2. 固定リングと抜け止めカバーをはめ込む。

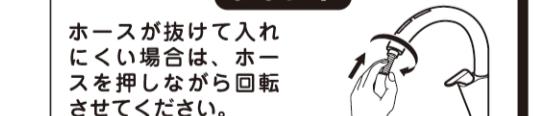
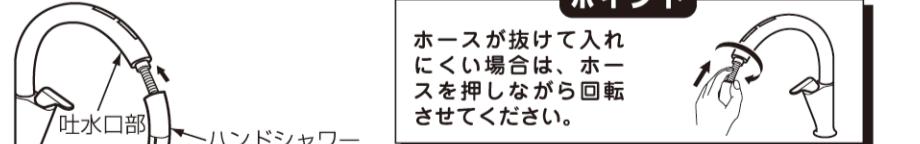


4 ホースとメインバルブの接続

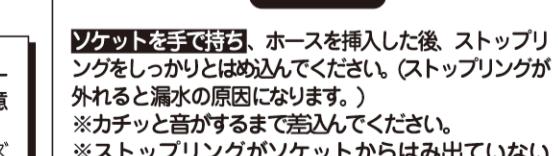
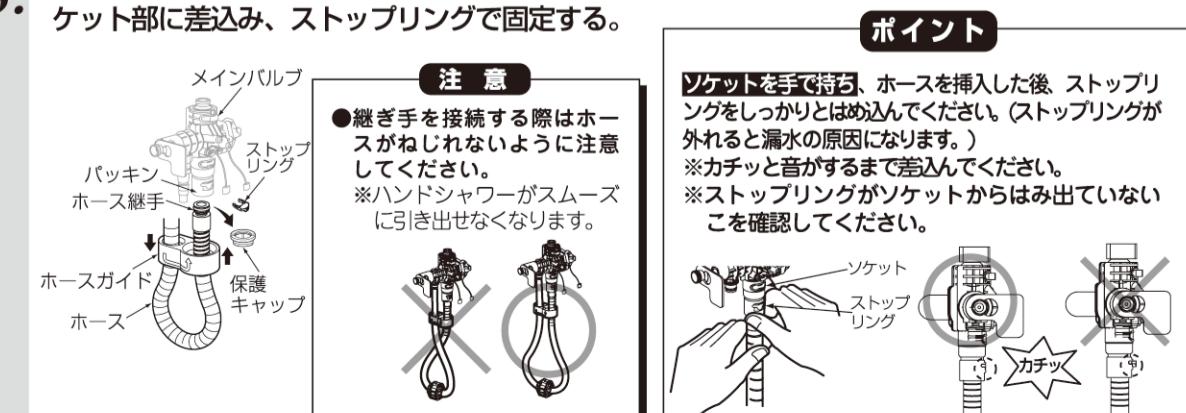
1. メインバルブの抜け止めカバー・固定リングを外す。



2. ハンドシャワーを吐水口部に収納する。

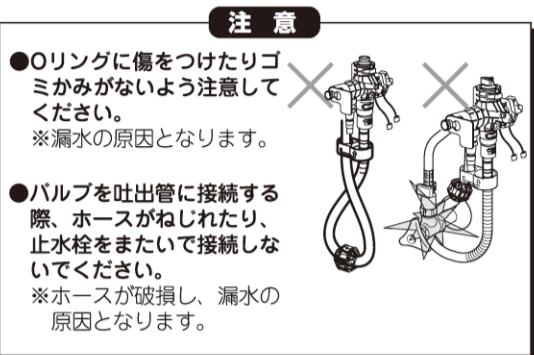
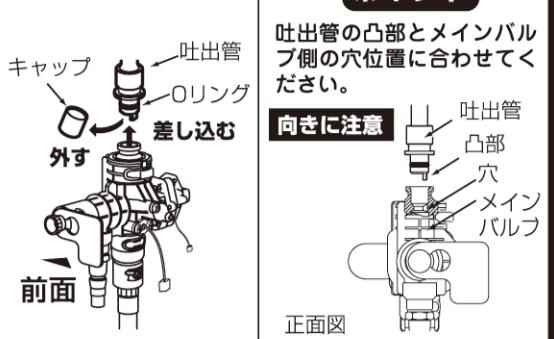


3. ホースをホースガイドの矢印のとおりに通し、ソケットを手で持ち、ホースをメインバルブのソケット部に差込み、ストップリングで固定する。

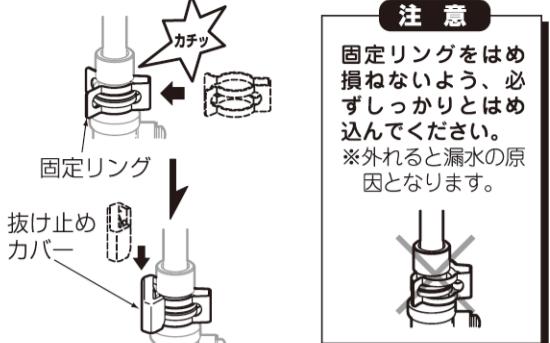


④ ホースとメインバルブを接続する つづき

4. メインバルブを吐出管に接続する。

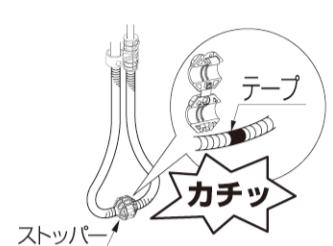


5. 固定リングと抜け止めカバーをはめ込む。



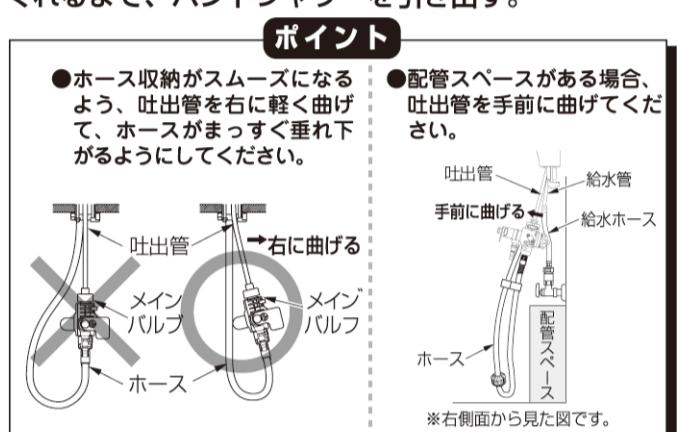
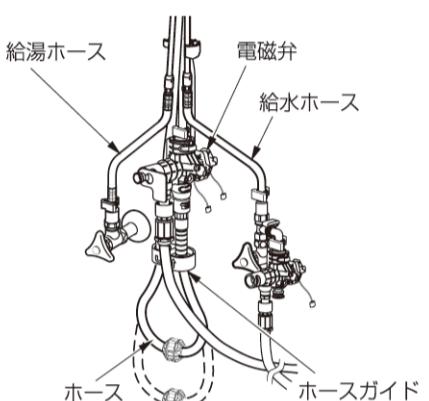
注意
固定リングをはめ損ねないよう、必ずしっかりとはめ込んでください。
※外れると漏水の原因となります。

6. ストップバーをホースのテープ部に取り付ける。



⑤ ホース収納性の確認

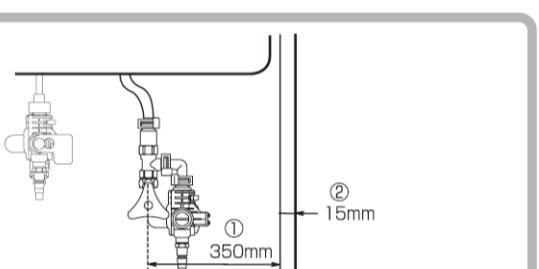
1. ホースの先端がパイプガイドの中にかくれるまで、ハンドシャワーを引き出す。



⑥ 取り付けブラケット・ガイドの取付け

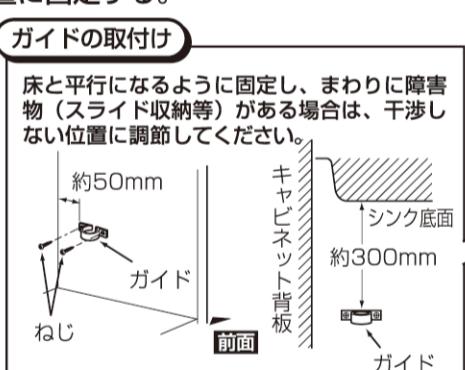
キャビネット内右側面の条件

- ①水側止水栓から350mm以内である
- ②板厚が15mm以上である
- ③右側面に扉や引き出し等の干渉物がない



条件にあてはまる場合

1. ねじで取付ブラケットとガイドを指定の位置に固定する。



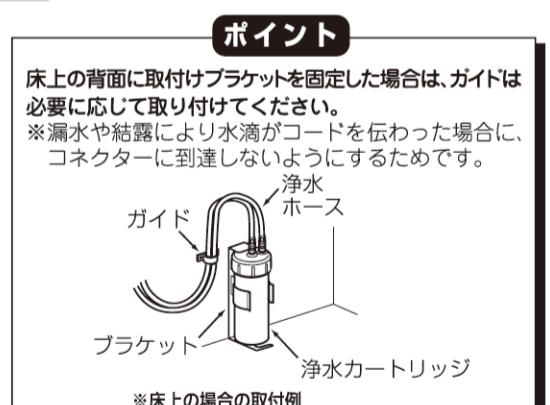
ポイント
ねじが差し込みにくい場合は、両面テープ一枚を使用し、仮固定した後、ねじを固定してください。

条件にあてはまらない場合

1. ねじで取付ブラケットとガイドを指定の位置に固定する。

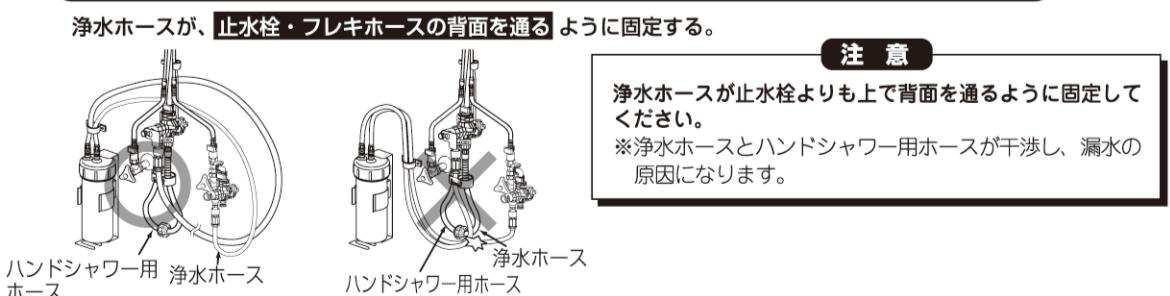
背面に固定する場合

メインバルブ、浄水バルブから浄水ホースが届く範囲で取付ブラケットを床板上に置き、背面に固定する。
※背面の板厚が薄い場合は、両面テープで固定してください。



止水栓よりも左に固定する場合（キャビネット内右側面に固定するスペースがない場合など）

浄水ホースが、止水栓・フレキホースの背面を通るように固定する。



注意
浄水ホースが止水栓よりも上で背面を通るように固定してください。
※浄水ホースとハンドシャワー用ホースが干渉し、漏水の原因になります。

⑦ バルブと浄水ホースの接続

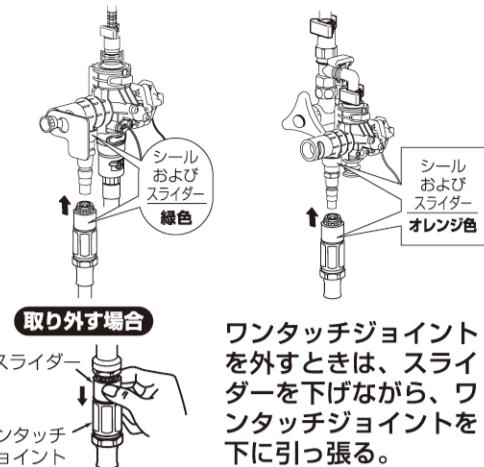
1. ガイドに浄水ホースを通す。



2. ワンタッチジョイントの保護キャップを外す。

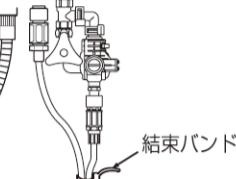


3. 2本の浄水ホースをバルブに貼ってあるシールの色とワンタッチジョイントのスライダーの色を合わせて接続する。

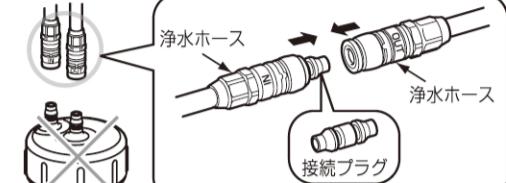


●ホースのシールとスライダーの色を合わせて正しく接続してください。
※浄水器が正常に機能しません。
●バルブに貼ってあるシールの色とワンタッチジョイントのスライダーの色を合わせて正しく接続してください。
※正しく取り付けられていないと、漏水の原因となります。

4. 終結バンドで2本のホースを束ねる。



5. 浄水ホースを製品に付属の接続プラグに接続する。



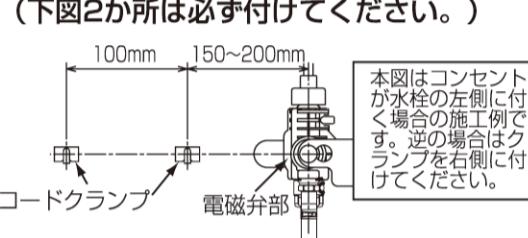
⑧ 電源部の接続

1. ハンドル部にコードを差し込む。

注意
濡れた手で触れたり、水がかからないよう十分注意してください。
※発火・ショート・感電の原因になります。

1. キャビネットの背板にコードクランプを取り付ける。

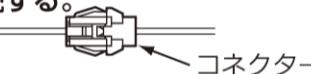
(下図2か所は必ず付けてください。)



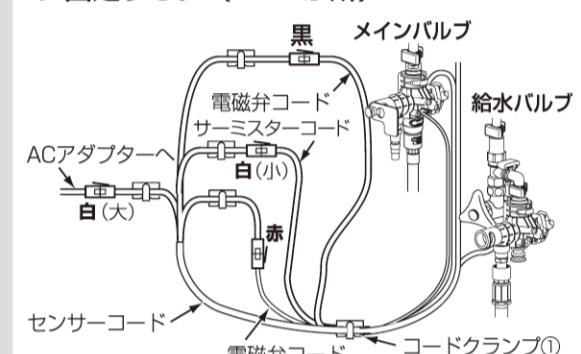
2. 背板に沿ってセンサーコード、電磁弁コード2本を湯側止水栓の上から左へ通す。

注意
コード類とホース等が絡まないようにしてください。
※発火・ショート・感電の原因になります。

3. コネクターを接続する。



4. コードをコードクランプでキャビネット内に固定する。(5~6か所)



上図の「コードクランプ①」は、4つのコネクタよりも下方に設置してください。

※漏水や結露により水滴がコードを伝わった場合に、コネクタに到達しないようにするためにです。

5. ACアダプターをコンセントに接続する。



6. 施工後タグを水栓本体のハンドル部に取り付けてください。



4. 施工後の調整

以下の手順の通り、正しく調整してください。

1. 作動確認

1. ACアダプターがコンセントに正しく差し込まれていることを確認してください。

2. メインバルブの手動弁が「左いっぱい」に回っていることを確認する。

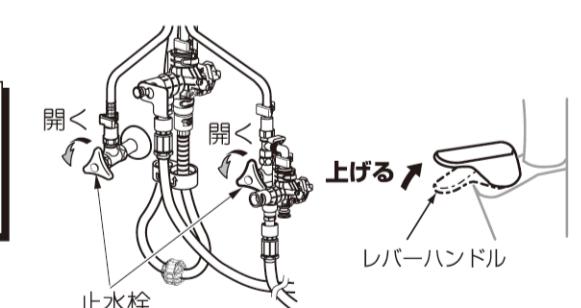
ポイント
手動弁は工具を使わず手でゆっくり回してください。

注意
左いっぱいに回さないと、止水不良（センサーに手をかざしても、水が止まらない。）の原因になります。



3. 止水栓を開き、レバーハンドルを上げる。

注意
高温に注意してください。
※レバーが湯側になっていると不意に高温の湯が出てヤケ湯側ドをする恐れがあります。



4. センサーに手をかざして、湯水センサー、浄水センサーの吐水・止水を確認する。

手をかざすと吐水

吐水時に手をかざすと止水
(止水までに1~2秒かかる)



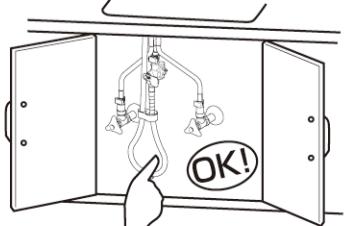
●感知エリアは右図のようになっています。
●約3秒間手をかざし続けると自動的に止水します。
●10分間止水が続くと自動的に止水します。
●浄水は、レバーハンドルに関係なく、吐水・止水します。
流量調節はできません。

5. センサーまたはレバーハンドルを閉じて止水し接続部からの漏水がないか確認する。

注意

本製品には安全のため、圧力逃がし弁（約2MPa）を内蔵しています。配管の耐圧検査（1.75MPa以上）を行うときは、止水栓を閉めて実施してください。

※圧力逃がし弁が作動し、正しく検査ができなくなります。



② ストレーナーの掃除

注意

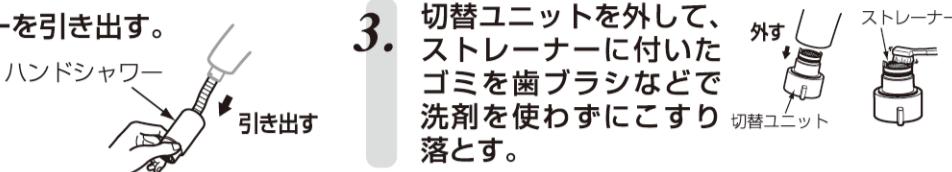
作動確認後、ストレーナーを必ず掃除してください。
※ストレーナーが詰まると流量が少なくなり、十分な機能が発揮されません。

切替ユニットのストレーナーの掃除

1. ハンドシャワーを引き出す。



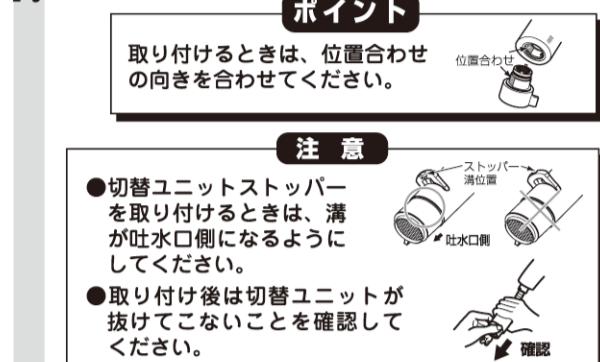
3. 切替ユニットを外して、ストレーナーに付いたゴミを歯ブラシなどで洗剤を使わずにこすり落とす。



2. 裏側にある切替えユニットストッパーをマイナスドライバーなどで引き抜く。



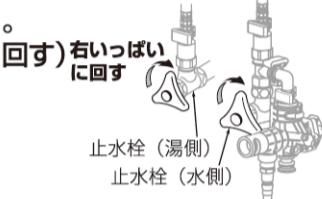
4. 切替えユニットを取り付ける。



ストレーナーの掃除(バルブ共通)

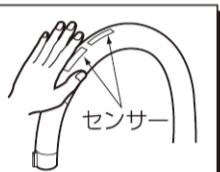
ストレーナーは、メインバルブと浄水バルブに入っています。

1. 止水栓を閉じる。



ポイント

止水栓確認および圧抜きのため一度センサーに手をかざしてみてください。



5. ストレーナーをアダプターに取り付ける。

ポイント

アダプターの溝にストレーナーをしっかりとはめ込んでください。



6. アダプターをバルブに取り付け、ストップリングを取り付け、吐出管に接続する。



注意

アダプターを取り付ける際、および吐出管に接続する際、Oリングに傷つけたり、ゴミがまぎないように注意してください。
※漏水の原因になります。

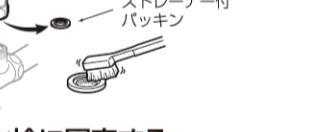


ストレーナー付パッキンの掃除(浄水バルブのみ)

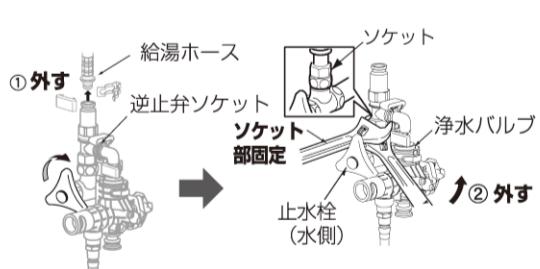
1. 止水栓を閉じる。(右いっぱいに回す)

3. ストレーナー付パッキンのゴミ等を歯ブラシなどで洗剤を使わずにこすり落とす。

ポイント



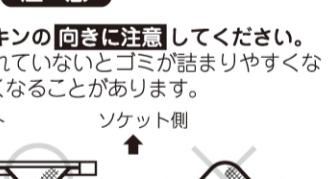
2. 給水・給湯ホースを外してから浄水バルブを外す。



4. 浄水バルブを止水栓に固定する。

注意

ストレーナー付パッキンの向きに注意してください。
※正しく取り付けられない場合、ゴミが詰まりやすくなり、と流量が少なくなることがあります。



③ 流量の調節

レバーハンドルを全開にしたとき、水側または湯側のスポット微細シャワーの流量が8L/min(※)を越える場合は、止水栓で流量調節をしてください。
(※: 1リットルの容器をいっぱいにするのに約8秒)

ポイント

●浄水の流量は、定流量弁を装着していますので、一定の流量(4L/min)以上は出ません。
●湯と水の流量が同じになるよう調節してください。



スポット微細シャワー

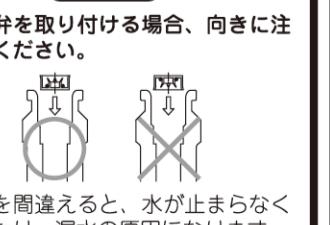
水圧0.07 MPa以下で、浄水の流量が不足する場合は定流量弁を外してください。

ポイント

●水圧0.07 MPaのとき湯水の流量は、5.0 L/minです。
(1Lの容器をいっぱいにするのに約12秒)
●定流量弁が取り外しにくい場合、マイナスドライバーで取り外してください。

注意

定流量弁を取り付ける場合、向きに注意してください。
※向きを間違えると、水が止まらなくなったり、漏水の原因になります。



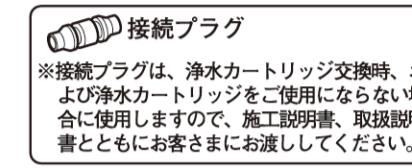
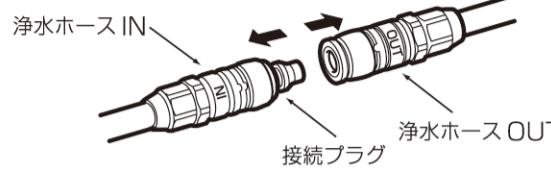
③ お客さまが施工後すぐに使用しない場合

お客さまが施工後すぐに使用しない場合は、ACアダプターを抜くか、もしくはブレーカーを落とす。

※浄水カートリッジは取り付けずに、そのままお客さまにお渡してください。

④ お客さまが施工後すぐに使用する場合

1. 浄水ホースを接続プラグから外す。

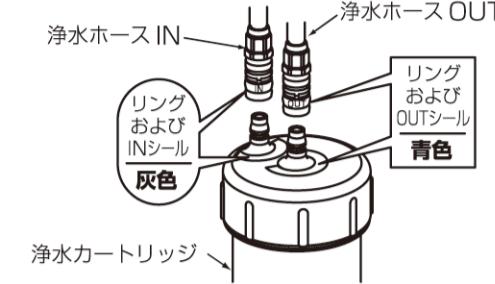


※接続プラグは、浄水カートリッジ交換時、および浄水カートリッジをご使用にならない場合に使用しますので、施工説明書、取扱説明書とともにお客さまにお渡してください。

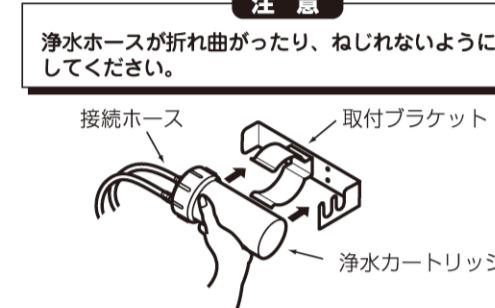
2. 浄水カートリッジのプラグ先端の保護キャップを外す。



3. 浄水カートリッジに貼ってあるシールの色と浄水ホースのワンタッチジョイントのリングの色を合わせて接続する。



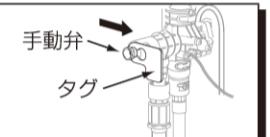
4. 浄水カートリッジを取付ブラケットに固定する。



5. 引渡前の確認

注意

電磁弁部の手動弁を左いっぱいに回した状態で、タグをしっかりと差し込んでください。
※タグがしっかりと挿込まれないと手動弁が回り、水が止まらなくなる可能性があります。



お客さまに引き渡す前にもう一度通水し、次のような現象がないか確認してください。

現象	点検内容	点検箇所	処置	参照項目
吐水しない	止水栓は開いているか?	—	止水栓を開く。	施工後の調節「流量の調節」
	コンセントに電気がきていない または停電中ではないか?	J	ブレーカーを確認する。 *停電の場合、手動弁を開く(右いっぱいに回す)と止水します。停電が解除されたら手動弁を閉じて(左いっぱいに回す)ください。	取扱説明書「停電および故障時の応急処置」
	ACアダプターがコンセントに差し込まれているか?	N	ACアダプターをコンセントに差し込む。	施工方法「電源部の接続」
	センサーの表面が汚れていないか? コネクターが外れていないか? 断水中ではないか?	E M —	汚れをふきとる。※1 コネクターを接続する。 回復するまで待つ。	取扱説明書「定期的なお手入れ」
	逆止弁が壊していないか? (洗浄等により)	K	逆止弁を交換する。	取扱説明書「定期的なお手入れ」
湯・水が吐水しない	レバーハンドルは開いているか?	B	レバーハンドルを開く。	施工前の前に「本製品の仕様と条件」
	圧力は十分か?	—	圧力条件を確認する。	施工後の調節「流量の調節」
	止水栓は十分開いているか?	—	止水栓を十分開く。	施工後の調節「ストレーナーの掃除」
	ストレーナーに、ゴミ詰まりはないか? 配管途中に大きな抵抗はないか?	F・H・I	ゴミ等を水で洗い流す。 抵抗となる障害物を取り除く。	施工前の前に「本製品の仕様と条件」
湯・水の流量が少ない	レバーハンドルを絞りすぎないか?	B	レバーハンドルを開く。	施工前の前に「本製品の仕様と条件」
止水しない	ゴミかみはないか? キズはないか?	D D C	ゴミ等を水で洗い流す。 キズがあれば部品を交換する。 カートリッジ固定ナットを締める。締め過ぎるとレバーハンドルが重くなることがあります。	施工前に「施工完了図」 施工後の調節「作動確認」
	センサーの表面が汚れていないか?	E	汚れをふきとる。※1	施工前に「施工完了図」 施工後の調節「作動確認」
湯・水が止水しない	手動弁が開いてないか?	J	手動弁を開じる。(左いっぱいに回す)	取扱説明書「定期的なお手入れ」
	逆止弁は正常か?(ゴミ、砂かみはないか?・Oリングにキズはないか?)	K	ゴミ等を水で洗い流す。 キズがあれば部品を交換する。	施工前に「本製品の仕様と条件」 施工後の調節「適正流量に調節する」
希望の温度が得られない	圧力は十分か?	—	圧力条件を確認する。	施工前に「本製品の仕様と条件」
	流量調節はよいか?	—	適正流量に調節する。	施工後の調節「流量の調節」
	ストレーナーに、ゴミ詰まりはないか?	F・H・I	ゴミ等を水で洗い流す。	施工後の調節「ストレーナーの掃除」
	逆止弁は逆止機能で動作可能ですか。逆止弁では浄水の温度は調節できません。	—	—	—
水栓本体がガタつく	ゆるみはないか?	G	ナットをしっかりと締める。	施工方法「ホースの収納性の確認」
ハンドルがガタつく	ゆるみはないか?	A	ねじをしっかりと締める。	施工方法「ホースの収納性の確認」
ホースがムーブスに	シンク内でのホースがねじれたり、メインバルブに干渉していないか?	H・L・O	ねじれおよび干渉していないか確認する。	施工方法「ホースの収納性の確認」

注意

※1 センサー表面の汚れをふきとる場合は、キズをつけないようにしてください。

※キズが付くと正常に作動しなくなる場合があります。

以下の現象は、故障ではありません。

- 水を止めた後に少しのあいだ水が垂れますが、切替ユニットの内部に溜まった少量の水が排出されるためで、故障ではありません。
- センサーによる吐水・止水時にカチカチと音がするのは、電磁弁の動作音によるもので、故障ではありません。

